

== 特集 =====

イクメン、悪くないです

KKR札幌医療センター病理診断科 岩崎 沙理

「イクメン」と呼ばれる言葉が流行語になったのは2010年。育児を積極的に、楽しんで行なう男性を表す言葉のようです。「男は外に7人の敵がいる」から家では庭いじり以外しないと宣ったのは60代の大先輩ですが、自分も外科に居たせいとか夫には何より「仕事ができる医師」になって貰いたいと結婚当初は思ったものでした。しかしいつの間にか、我が家にイクメンが出現していたのは、誰一人予想だにしないことでした。夫は整形外科で、大学医局に所属、現状は大学院生、子供は昨年3人目を授かりました。理由は私には分かりませんが、時代の流れと本人の希望かもしれません。

十年前、一人目の時は、お風呂に赤ん坊を入れるのに精一杯、着替えも、おむつの替えも、タオルも、何もかもこちらで段取りしなければならなかった夫でした。内心、自分で入れた方が早いと思ったものでしたが、今やすべて一人で用意、一人でお風呂に入れ、一人で寝かしつけてくれます。0歳児を雪が積もった高山に連れていくとか、0歳児を連れて部活のコンパに参加する、などといった恐ろしい言動はなくなり、子供たちもお父さんから理解できない所業を押し付けられるような事が減ったせいか、安心して遊んでもらっているように見えます。最近ではたまたま仕事が早く終わったら、保育園のお迎え、習い事をしている小学生のお迎え、家で晩ご飯の支度、子供のお風呂、洗濯までしてくれます。家事力は新米主婦の比ではないレベルになりました。

元々夫はこだわりが強く、米は圧力鍋以外で炊くのはダメ、高価な曲げわっぱ(竹でできたおひつ)や鉄製中華鍋など細かい手入れを要する道具を好み、テフロンコーティングされたフライパン、食器洗い洗浄機や洗濯乾燥機(の乾燥機能)を邪道と嫌厭するような人なのですが、イクメンとして雑多な家事もこなすようになるにつれ、効率的な家事で子供との時間を増やせることに理解を示すようになりました。仕事だけをしていた時よりも、子供受けが圧倒的によくなり居心地がよいのか早く帰ってきますし、子供たちの心を驚かすかみにするプレゼントを選ぶようになり、父親力も格段にアップしたと思います。子供たちからエネルギーを注入されて元気になる気がしますし、私には理解不能な男の子の自由な魂のよき理解者でありますし、自分によく似た未熟な息子と対峙することで、その弱さや不器用な面を客観的に認識しているように見えます。子供たちをバスケットボールの試合に連れて行って勇姿を見せてくれ、子供たちが牛乳を飲んで身長をのぼす意欲をかき立ててくれたりします。また、私に対しては、どうしても出たいカンファレンスや講

演会などに理解を示し、突然の相談にもパニックを起こさず、できる範囲で柔軟に対応してくれるようになりました。妻を支える夫力も上がったように思います。

一方、夫が職場でどうなのかはちょっと図り知れないところがありますが、職場においても、家庭を大切にするイクメンはいい影響が多いように思います。私の職場には上司も含めイクメンが複数います。世には家庭を顧みないで仕事だけしているにも関わらず、集中力を欠いていたり、仕事でSNSなど別なことに熱中していたり、無駄に時間外労働をしている男性医師が沢山いるように思いますが、イクメンたるには、そんな悠長なことはできません。医師(特に病理医)の職場環境は過酷な所も多いですが、イクメンが存在できる職場は、(出産育児を女性だけの仕事として)女性にだけ優しい職場ではなくて、子育てしている女性も男性も、そしていずれは親の介護する時、自分が病人になった時にも、仕事しやすい職場だと思います。限られた時間をどう生きるか、冗長でなく効率的かつ創造的な仕事をしつつ、平和で居心地よい家庭も手に入れられたら、素敵じゃないでしょうか。男性病理医の皆様にはイクメンへの偏見を持たず、そんな人生も案外悪くないかなと思っていただければ幸いです。

イクメン

岩手医科大学病理学講座病理病態学分野 阿保 亜紀子

「イクメン」。2010年の流行語大賞であり、このところ頻繁に耳にする言葉です。このたび原稿の依頼を受けて「イクメン」をネット上で検索したところ「イクメンもどき」という言葉を見つけました。普段、疾患の良悪を診断する立場からすると「～もどき」という言葉はやはり気になります。果たして「もどき」は悪性なのでしょうか。

「もどき」は4月に放送されたNHKの朝番組で取り上げられています。番組内では、夫が「イクメンもどき」だという主婦4人による座談会を開催。次の4つの特徴が挙げられました。(1)人前でイクメンぶりを過剰アピール。(2)一見構っているようであくまで自分本位(自分に付き合わせるだけ)。(3)料理はするが片づけはしない。(4)一緒に風呂に入れるが洗わない。

このような「もどき」に対し、「人前だけでイクメン面するな!」、「中途半端は逆に迷惑」、「実は全然役に立っていない」、「手伝ってあげてる感が鼻につく」と妻達は不満を感じています。共感できる部分もありますが、コメンテーターの女性タレントの『「もどき」でも何もしないよりいいのでは?』との発言もあり、「もどき」が本当に悪性かどうかは判定が難しそうです。

ところで、「もどき」の発生には妻側の要因も関与しているとも

言われており、「頑張りを認めてあげない」、「自分の作法を押し付ける」、「要求がどんどん高くなっていく」場合、夫のやる気が低下してしまうのだそうです。こう書くと夫の取り扱いはまるで育児にも似ていますが、専門家の中にも「イクメンは妻が根気良く育てるものです」との意見もあるようです。なるほど、ローマは一日にして成らず、イクメンも第一子にして成らず・と納得しかけた一方で、番組司会の女性アナウンサーが放った一言、『夫のことも育てなきゃなんて、面倒くさいねー』がまさに女性の本音ではないでしょうか。贅沢なようですが、やはり自力でイクメンに進化してくれる夫であるに越したことはありません。さて翻って我が家とはというと、私：病理医、主人：内科医、長男：7歳、次男：4歳の4人家族。先日ショッキングな出来事がひとつ。小学二年の長男に『この家でパパとママどっちが働き者だと思う…？』と質問を投げかけたところ、なんと『パパかなあ』との返答が。ニヤニヤする夫に対する何ともいえない感情・ひょっとして、これが「もどき」に対する不快感？、と一つ悟ったような気持ちになる反面、こちらが「主婦もどき」と反撃を受けないよう、なんとか夫をコントロールする方法を思案中の今日この頃です。

私のイクメン生活

東京医療センター臨床検査科長 前島 新史

保育園保護者として15年生、小学校保護者として9年生の兼業主夫です。中学生1人、小学生2人、保育園児1人の4人の子どもがおります。学術的な話でなくて恐縮ですが、特に女性病理医の方の参考になりましたら幸いです。

最近の平日は、朝5時半頃起床して洗濯物の片づけと朝食準備をし、6時半頃子どもたちを起こして朝食の世話をした後7時過ぎに家を出ます。17時15分に職場を出て自転車で保育園にお迎えに行き、17時45分過ぎに帰宅して夕食を18時20分目標で作ります。食卓には土日に家内が作り置いたおかずも含めて10品程度が並びます。18時からの会議に出席する時は、下の子を上の子に預けます。夕食の後片付け後に子どもを風呂に入れ、洗濯物を乾燥機付き浴室で干し、子どもの歯磨きを手伝い、寝室では子どもに本を読んで聞かせて22時前に子どもと一緒に寝ます。まかない等は頼んでおらず、病児は家内と交代で休むか祖父母の救援を頼むかでのいでいます。

土日は朝4時半頃起きて必要に応じて子どものお弁当を作り、その後職場に行って軽く仕事し、帰宅後は朝食や夕食作り、部屋の掃除や洗濯、風呂掃除などをして、時にメダカやカブトムシの世話もします。子どもとは、平日十分触れ合えないため休日なるべく一緒に過ごすようにしており、自分のための余暇の時間はありません。

15年間の修行により、肉や魚、野菜の炒め物系はもとよりシチューなど煮物、揚げ物、スパ・ラーメン・焼きそば等の麺物や

中華物など、レパートリーは濃い煮物系を除いた全般です。ただ、子どもたちは手の込んだハンバーグやカレーよりもチャーハンや餃子、から揚げなど手のかからないものが好きなのが残念です。

主な悩みの1つ目は、浮世離れすること。読む時間がないので新聞を取っておらず、テレビは天気予報しか見ないため閣僚の名前すら知りません。2つ目は、3年前に天ぷらで火傷して以来の慢性手湿疹で、日々ステロイド治療です。3つ目は、小学校の保護者会などに十分出られないため同級生とその親が十分認識出来ず、保護者として孤立する傾向です。ただ、PTA活動に関しては最低限の責務は果たそうと思いたち以前広報部の部長を2年間務めました。やや真面目にやりすぎて区の小・中PTA連合会の広報講習会の講師に呼ばれたこともありました。

夕方の会議に子連れで行くこともあるような私ですが、子育て支援に積極的な当院院長はじめ幹部の方々や、育児のため突然休むことに理解のあるスタッフに恵まれていることが、生活出来ている最大の要因です。育児する病理スタッフも多く、各々遅刻や休みを取ることがありますがお互い様、ということでカバーしあってやっております。女性医師が主力の時代が到来しつつありますが、子育て支援に積極的な職場環境を整えることは病理医リクルートの一助になることは間違いない、と考えています。

二刀流に挑戦の日々

相澤病院病理診断科 山ノ井 一裕

ある日急に、専門医部会報の、それも、今流行のイクメン特集への寄稿についてのお話をいただき、山々に囲まれた田舎でマイペースに過ごしていた私に、なぜ？、じえじえ！でしたが、男女を問わず、これから病理を目指す方々への参考になればと思い、自分の経験談を述べさせていただきます。

私は、今年で、病理医6年目、そして子供は4歳になります。病理に転科した当初は、まだ子供もおらず、まさか現在のような状況になるとは全く思っていませんでした。その後息子ができ、その当時私は病理の大学院2年生、妻は外科系臨床科のレジデント1年目。双方が修行を続けるためには、お互いに赤ちゃんの世話を協力しないとどうにもならない状況で、いわば必然的に私もイクメンになりました。病理は臨床科と違って、夜中に緊急で呼び出されることもなく、比較的自分本位で仕事の時間を調整できる利点があり、さらに自宅で大学の図書情報システムを使った文献検索もでき、my顕微鏡も携えたことで、自宅でも仕事ができることが幸いし、何とか、病理の修行、育児のどちらも、休むことなく続けられました。しかし、何よりも支えになったのは、周囲の理解でした。急な子供の病気などで迷惑をおかけしたことも何度もありましたが、病理の懐の深さといえますか、病理の仕事が好きならば、どんな人でも？受け

入れてもらえる寛容な土壌のおかげで、迷惑をおかけしつつも、クビにならずやってこられました。また、学会や地方会でも託児所が併設され、無料で預かってもらえるのは、本当に助かります。今は、子供を送って(夏はママチャリ、雪の日はベビーカー(笑))病院にたどり着くと、子育てから解放され病理の仕事に集中できる幸せを、そして子供を迎えて家に帰ると、仕事から解放されて子供と触れ合える楽しさを、あわせて二重の幸せ？を経験できるなんて幸せ者かとも思いつつながら、イクメンと病理医という二刀流に励んでおります。まだどちらの刀も荒削りで、両方ともに磨きをかけている最中です。また、私なんぞ若輩の身で、現在の勤務先の上司をはじめ、病理学会には育児と仕事の二刀流をこなしてきた立派な諸兄姉方がたくさんおられると聞いております。今後さらに、同じような二刀流の仲間が増え、ひいては、このようなライフスタイルが可能な病理医を目指していただける先生方が、男女を問わず、増えるきっかけになることを願っております。

病理医と育児 ～非なるものの中の共通項～

産業医科大学第二病理学 山田 壮亮

喜怒哀楽、わたくしは怒るのが好きなようであります、しかしもう一方で、酒を呑み笑い合う時間も愛する男であります。ここ十年来、鬼の目にも涙する機会は減ってしまいましたが……。ところで、やはり今日も、朝から自然と大声を張り上げたくるのであります。一人の大学院生を育てるのは、非常にエネルギーの要ることでございます。かく言う私自身、例に漏れず、扱いにくい学生であったわけですから、歴史は繰り返しているのでありましょうけれども……。ただ、わたくしの指導法は違うのであります。特に、まだ記憶に新しく印象深いのは、最初の指導大学院生であった中国人女性であります。毎日大学に来てさえいれば学位論文が出来るものでも思っているらしく、じっとパソコンの前に座ってばかりいます。さらに、年齢も近いこともあり、当初わたしから指図されるのを嫌悪して、ふさぎ込みがち。そこで、わたしが先ず命じたのは、朝一番、最初に教室へ来て、教室員一人一人に朝の挨拶をさせる、というもの。中国人留学生と言えども容赦せず、伝統・格式ある日本式縦社会の基本の基を、体から浸み込ませさせました。実験・研究よりも、先ずは生活態度。これが私のモットーです。確かに「三つ子の魂、百まで」でございます故、もういくら私が口うるさく大声張り上げても「暖簾に腕押し」なのは百も承知。しかし、です。少なくとも私の前だけでもいいのです、指導者たるもの、時には威張り散らしても宜し。その代償に、一つの目標に向かい、時には矢面に立ち、孤独に艱難辛苦を味わえばよい訳でございますから。つまりは、「怒る」そして「威張る」、これらは自省に通ずるものであり、克己心の頭れなのでもござりましょう。と、哲学めいた戯言を述べましたが、中国人大学院生の彼女は学位審査も終え、帰国の途に就く

数日前だったでしょうか、朝寝坊して遅刻したのです。ここは仏となり目をつぶろう、気付かぬふりをしようと心に決めましたら、電話一本、彼女から「すみません、今から行きます」との由。4年間でその時初めて、彼女の日本語での謝罪の言葉を聞きました。今頃は母国で、トンデモナイ目に遭ったと吹聴して回っているでしょうが、わたくしは一人、かくあるべしとほくそ笑んでおりました。

これは、正に「子育て」にも大いに通ずると、私は考えているのであります。育児、すなわち育生なりと。真っ直ぐに、余計なことを考えずに、ぶつかっていく。一生懸命に愛情をかけ、一生懸命に怒り、笑い、時には大人げない幼稚なところも見せながら。ただ、子供から、生きる姿勢というものを常に見られているんだ、という意識を忘れずに、姿勢を正す毎日でございます。昔からの格言、教えることは教えられること、自らを律し、しかし孤独に酒を食らふ、今日この頃の山田です。見事な駄文、雑感にお付き合い下さり、誠にありがとうございます。山田壮亮 拝。

私はイクメンでなく、イケメンなのですが・・・

香川大学医学部病理診断科 串田 吉生

私は中四国支部の編集委員をしており、先日の病理学会でイクメンというテーマが決まって以来、多数の先生方の協力をいただきながら原稿を書いていただける先生を探してきましたが、書いてくださる先生を見つけることができませんでした。(某先生にお願いすると「私はイケメンなだけです。」と返事が返ってきました。)仕方がないのでイケメンかつイクメンの私が書きたいと思えます。というのは冗談で私はどちらでもありませんが、今回のテーマが男女共同参画の一環であり、妻も病理医で3人の子育てをしているということで、私の経験を通して思ったことを述べたいと思えます。

私が病理学教室へ入局した時(約20年前)、妻は同じ医局の2年先輩で、右も左も分からなかった私に手取り足取り教えてくれただけでなく、長子を出産するまでは2年のアドバンテージを差し引いても病理診断能力や論文の数など私は全く及びませんでした。そのため、その当時(約15年前)は私がイクメンになって妻は仕事をバリバリした方がいいのではと思っていましたし、妻も仕事に対するモチベーションは高かったと思えます。実際、妻は長子出産3か月後には週1回のパートタイム勤務、10か月後には中規模病院ではありますが一人病理医として時間外病理解剖を含め仕事に復帰していました。しかし、次子の出産と私の県外への転勤(一人病理医)があり、その後長子と次子に障がいがあると判明したところには仕事は週1回程度となり、末子の出産を機に完全休職という形になりました。私が大学に移った後、大学でパートタイム医員が受け入れ可能なのを機に妻は約5年ぶりに仕事に復帰し、現在は週3回のパートタイム勤務をしています。その間、私はといえば、普通？

に仕事をし、平日はできる限り晩ご飯には帰り家族と一緒に夕食をするようになりました。特に子供が小さいころはミルクや離乳食を食べさせ、子供を風呂に入れて、寝かしつけをし、その後再び仕事に行くという日が続きました。それ以外では朝学校へ子供を送ること(保育所の時から数えると10年以上続けています)をしたくらいでしょうか。しかし、子供の世話と家事はほとんど妻で、私は育休をとることもなく、子供が病気の時仕事を休むことや子供の帰ってからの世話および家事などはほとんどしなかったのです。イクメンというには程遠いです。イクメンになるには本人の問題だけでなく、それに加え職場の理解、社会の理解も必要になってくると思います。男性の育児休暇や時短勤務など以前に比べ取る人が増えてきたと聞きますが、日本ではまだまだ浸透していません。私の職場では部長を含め病理医全員(男性5人、女性5人)に小学生以下の子供がおり、子育てへの理解は非常にある方だと思っておりますが、男性の育児休暇や時短勤務をとった人は現在いません。ただ、私の職場では子供の病気や行事などで子供に付いていなければならない時に休める(早退、遅刻できる)雰囲気があることは非常にありがたいことで、私も必要な時は時々そうさせてもらっています。いきなり男性の育休とまではいなくても、そういうことから始めるのが大事だと思っています。

ところで、子育てをしながら優秀でバリバリ働いている女性病理医は増えていると思います。もちろん彼女らには尊敬の念を抱きます。ただ、全員がそうなれるわけではなく本人の能力、職場の理解、家庭の事情、社会環境などにより大きく左右されると思われれます。スーパーな女性病理医だけではなく底辺を広くすることも大事だと思っております。というのは、ある外科系の若い先生らと飲みに行く機会があり、その時若い女性医師が「先輩女性医師の〇先生は子育てをしながらバリバリ働いて尊敬するけれど、そういう先輩しかいないとプレッシャーに感じる。」と言っていました。それまでは今の妻の勤務状態を見て若い先生方のモチベーションを下げってしまうのではと後ろめたさを感じていましたが、その話を聞いていろいろな人や勤務体系があっという間ではと思えました。

医学医療の進歩と、医療を取り巻く社会情勢の変化の著しい今、辞めている期間が長いほど復帰が難しくなります。私の妻をみても大学のパートタイム勤務が可能になったことと部長をはじめ職場の理解により復帰できたわけですが、5年のブランクから仕事に復帰した時、標本を見る時の集中力の低下や以前覚えていたのに忘れてしまったこと、休職の間に進んだ新しいことへの対応などに本人は苦しんだし、休職する前の状態を知っている私にとってもそのギャップに驚きました。辞めてしまえば0ですが、できる範囲で細々とでも続けていけば、今は0.1でも子供が成長し手が離れるのに従いつかは1になる時が来ると思います。本人の努力だけでなく多くの人の指導や支援があって医者になれるのだから、それを無駄にしないためにも辞めずに続けることと続けられる環境を作るのが大事だと思っております。

==私の趣味=====

私の趣味

京都第二赤十字病院病理診断科 桂 奏

地域のアマチュアオーケストラでオーボエという管楽器を吹いています。大して上手くもないのに、時間とお金をかけてどうして20年以上も続けているのだろうかと思うことがありますが、70人ほどの人間が一緒になって一つの音楽を作っていくことによる感動と達成感があるのでしょう。さらに、これは管楽器奏者ならではのことと思いますが、ソロを吹く気持ちよさでしょう。オーケストラの音楽作りは基本的に指揮者の仕事ですが、たとえ短い時間でもソロでは自分の気持ち(「こころ」)を表現することができます。本当にたまにですが、気持ちと音楽が一緒になってある景色、あるいは情景が浮かんで来て、ふだん感じることのない何とも言えない気持ちになれることがあります。

さて私の所属しているオーケストラでは、昨年の10月にブラームスのヴァイオリン協奏曲を演奏しました。この曲、二楽章でソロヴァイオリンが出てくる前の冒頭の2分間ほどにオーボエのソロがあります。伴奏として他の管楽器も鳴っていますが、オーボエは光り輝く主役(どソロというやつです)、プロの演奏のCDでオーボエ奏者の名前が記されることがあるほどで、オーボエ奏者なら誰でも一度は吹いてみたいと思う曲でしょう。そこそこうまく吹けるのではないかしら、などと漠然とした自信(今から思うと全く根拠のない妄想のようなもの)がありました。練習が始まってみるとなかなか思うように行かず、毎回の練習がプレッシャーでした。「こころ」を表現するための技術が伴っていないということを実感しました。仕事から帰って食事前の短い時間、許す限り毎日練習する日々が続きました。少しうまくいくような気持ちになれる日とまったくダメな日があり、一喜一憂という感じでしたが、技術的な問題はすぐには解決できないので、最終的には自分の「こころ」を表現することに集中して演奏できればいいと思いました。ヴァイオリンソロの方が妊娠中であることもわかり、ブラームスの音楽が持つ力を借りて、漠然とはあるけれど愛に溢れた優しい気持ちで吹けると良いなあと考えていました。

本番一番緊張したのは曲が始まる前のチューニング、音が震えてしまいました。始まったら何とか落ち着いて、二楽章は気持ちをこめて吹くことができました。とても良いできばえとは言えなかったと思いますが、ソロの方やオーケストラのメンバー数人から「よかったですよ」と言って頂きました。

その後しばらくは腑抜けたようになっていましたが、また次の演奏会に向けて精進の日々が続きます。

== 支部報告 ==

---北海道支部---

北海道支部編集委員 深澤 雄一郎

北海道病理医会代臨時総会の報告

平成25年5月25日に北海道病理医会代臨時総会が開催され、以下の事項について報告、討議がなされ、承認された。

報告・承認事項

1. 代表者会議メンバーの決定について

池田 健(函館五稜郭病院)、池田 仁(函館中央病院)、今村正克(札幌診断病理学センター)、大内知之(恵佑会札幌病院)、鹿野哲(勤医協中央病院)、菊地慶介(帯広厚生病院)、小林博也(旭川医科大学大学院免疫病理)、今信一郎(市立室蘭総合病院)、近藤信夫(ジェネティックラボ病理解析センター)、佐藤昇志(札幌医科大学医学部第一病理)、澤田典均(札幌医科大学医学部第二病理)、篠原敏也(手稲溪仁会病院)、高桑康成(NTT東日本札幌病院)、高橋秀史(北海道子ども総合医療・療育センター)、高橋達郎(釧路労災病院)、高橋利幸(北海道消化器科病院)、立野正敏(釧路赤十字病院)、田中伸哉(北海道大学大学院腫瘍病理)、外丸詩野(北海道大学大学院分子病理)、西川祐司(旭川医科大学大学院腫瘍病理)、長谷川 匡(札幌医科大学附属病院病理部)、深澤雄一郎(市立札幌病院)、松野吉宏(北海道大学病院病理部)、三代川齊之(旭川医科大学病院病理部)、村岡俊二(札幌厚生病院)、山城勝重(北海道がんセンター) 26名

2. 新役員の決定について

北海道病理医会会長(代表者) 長谷川 匡

北海道病理医会副会長(副代表) 鹿野 哲

標本交見会担当幹事 外丸 詩野

庶務・会計担当幹事 高橋 利幸

選挙管理委員 近藤 信夫

監事 村岡 俊二

3. 平成24年度 会計監査報告案について

4. 平成25年度 事業計画案について

1) 標本交見会

担当幹事:北海道大学大学院分子病理 外丸 詩野

会場:北海道大学医学部 学友会館フラテ大研修室ほか

協力:北海道がんセンター 山城 勝重

症例検討 特別講演

2) 共催事業等

細胞診講習会(日本臨床細胞学会北海道支部との共催)

11月頃

Lymphoma Clinico-Pathology Conference (LCPC)

7月13日、2月頃

3) 病理医会施設代表者会議

随時

4) 病理医会総会

臨時 平成25年5月25日(土)

定例 平成26年3月15日(土)

学術活動報告

第159回日本病理学会北海道支部学術集会(標本交見会)が外丸詩野先生(北海道大学大学院医学研究科分子病理)のお世話で5月25日(土)、北海道大学医学部学友会館フラテ大研修室において行われました。検討された症例は以下の通りです。

13-01/卵巣腫瘍(漿液腺癌)患者のセカンドルック手術で見られたリンパ節病変/立野正敏(釧路日赤病院病理診断科), 斎藤良玄(同産婦人科), 青木直子(旭川医科大学病理学講座), 柳内 充(市立札幌病院病理診断科)/70歳女性/Lymphangioliomyomatosis = Peritoneal angioleiomyoma (PEComa)

13-02/高齢女性の外陰部皮下腫瘍の一例/計良淑子1、杉田真太郎1、荻野次郎1、中西勝也1、香山武蔵2、長谷川 匡1 札幌医科大学附属病院病理部 2札幌医科大学附属病院形成外科/60歳代 女性/Cellular angiofibroma(=angiofibroblastoma-like tumor of female genital tract)

13-03/妊娠14週に見つかった卵巣腫瘍の1例/池田 仁(函館中央病院病理診断科)/20歳代 女性/Mucinous adenocarcinoma with sarcoma-like mural nodule/本症例では3mm以内のmicroinvasionをもってadenocarcinomaとすべきか、borderline tumor with microinvasionとすべきであるかについては意見が分かれた。

13-04/急速な増大を示した乳腺嚢胞性腫瘍/鹿野 哲 八代真一 松田玲奈 伊藤真理子 村上洋平 佐々木 豊(勤医協中央病院病理診断科)/60歳代 女性/Mixed metaplastic carcinoma (matrix-producing carcinoma and squamous cell carcinoma)

13-05/特異な組織像を示した胃腫瘍の1例/瀧山 晃弘1、野口 寛子1、永井一正2、篠原 敏也1 手稲溪仁会病院 病理診断科、2 手稲溪仁会病院 消化器病センター/70歳代 男性/Tubular adenoma (intestinal type) with endocrine cell component/differentiation/本症例の粘膜病変をadenomaとすべきかadenocarcinomaとすべきかについては病理医間で意見が分かれた。

---東北支部---

東北支部編集員 増田 友之

第76回日本病理学会東北支部学術集会が下記の要領で開催された。平成25年2月9日(土)~10日(日) 仙台良陵会館。

1. 演者名:勝島浩紀(東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野)

演題名:小腸腫瘍の1例

演者診断名:Ileal anisakiasis (小腸アニサキス症)

最終診断名:Ileal anisakiasis (小腸アニサキス症)

2. 演者名:野々村頼子(新潟市民病院初期研修医)

演題名:ホジキンリンパ腫に対する自己末梢血幹細胞移植後に高度の下痢・便秘を来した消化管病変

演者診断名:Post-transplant lymphoproliferative disorder (PTLD), polymorphic

最終診断名:PTLD, malignant B cell lymphoma, (DLBCL, probable)

3. 演者名:大江倫太郎(山形大学医学部病理診断学講座)

演題名:大腸生検の1例

演者診断名:Idiopathic mesenteric phlebosclerosis

最終診断名:Idiopathic mesenteric phlebosclerosis

4. 演者名:工藤和洋(市立函館病院中央検査部臨床検査科)

演題名:診断に苦慮した乳房紡錘形細胞腫瘍の一例

演者診断名:Sarcoma arising dermatofibrosarcoma protuberans

最終診断名:Sarcoma arising dermatofibrosarcoma protuberans

5. 演者名:立野紘雄(日本病理研究所)

演題名:稀な浸潤性乳癌の1例

演者診断名:Invasive lobular carcinoma, solid, histiocytoid, partial ductal differentiation

最終診断名:Invasive lobular carcinoma, solid, histiocytoid, partial ductal differentiation

6. 演者名:本間慶一(新潟県立がんセンター病理部)

演題名:乳腺腫瘍性病変の一例

演者診断名:Duct carcinoma in situ, mixed type; papillary, spindle cell and flat component

最終診断名: Duct carcinoma in situ, mixed type; papillary, spindle cell and flat component

7. 演者名: 三間紘子(新潟市民病院病理診断科)
演題名: 脾腫瘍性病変の一例
演者診断名: コレステリン結晶を伴う自己免疫性脾炎
最終診断名: コレステリン結晶を伴う自己免疫性脾炎(ただし、アルコール性脾炎についての検討をする)
8. 演者名: 千場良司(仙台厚生病院病理診断・臨床検査科)
演題名: 特異な再発様式を示した肝細胞癌の1例
演者診断名: Hepatocellular carcinoma, derived from progenitor cell
最終診断名: Hepatocellular carcinoma, derived from progenitor cell (ただし、CD133等の肝幹細胞マーカーの検索の必要を要する)
9. 演者名: 阿保亜紀子(岩手医科大学医学部病理病態学講座)
演者が佐藤孝先生と交代しています。
演題名: 直腸癌術後の経過観察中に発見された肝腫瘍の一例
演者診断名: 肝蛭症
最終診断名: 肝蛭症
10. 演者名: 渋谷里絵(仙台市立病院病理診断科)
演題名: 巨大腎腫瘍の一例
演者診断名: Papillary renal cell carcinoma
最終診断名: Papillary renal cell carcinoma
11. 演者名: 後藤末奈子(いわき市立磐城共立病院研修医)
演題名: 剖検することで診断できた血球貧食症候群の1例
演者診断名: Intravascular large B cell lymphoma
最終診断名: Intravascular large B cell lymphoma
12. 演者名: 矢嶋信久(八戸市立市民病院臨床検査科)
演題名: 精巢腫瘍の1例
演者診断名: Spermatocytic seminoma
最終診断名: Spermatocytic seminoma
13. 演者名: 薄田 浩幸(長岡赤十字病院医療技術部)
演題名: 腹腔内腫瘍の一例
演者診断名: phosphoglyceride crystal deposition disease
最終診断名: phosphoglyceride crystal deposition disease
14. 演者名: 梁 秀蘭(山形大学医学部病理診断学講座)
演題名: 脊椎腫瘍の一例
演者診断名: Adamantinoma
最終診断名: adamantinoma
15. 演者名: 川名 聡(福島県立医科大学病理病態診断学講座)
演題名: 多彩な組織像を示した松果体腫瘍の一例
演者診断名: germinoma + teratoma with malignant transformation
最終診断名: germinoma + teratoma with malignant transformation
16. 演者名: 高橋貴一(みやぎ県南中核病院研修医)
演題名: 急性壊死性食道炎の1剖検例
演者診断名: 急性壊死性食道炎(多因子発症が知られているが、本症例は十二指腸潰瘍による胃内容物流出障害、局所的な循環障害、低栄養状態による粘膜保護力低下・障害治癒の遅延、誤嚥による肺障害からARDS、低酸素増強などが複合的に作用し発症したと考察された。)
最終診断名: 急性壊死性食道炎
17. 演者名: 無江良晴(岩手医科大学病理学講座分子診断病理学分野)
演題名: 舌根部腫瘍の一例
演者診断名: 明細胞癌, NOS
最終診断名: 明細胞癌, NOS
18. 演者名: 廣嶋優子(秋田大学医学部器官病態学講座)
演題名: 小児頸部腫瘍の一例
演者診断名: Fetal rhabdomyoma, intermediate type
最終診断名: Fetal rhabdomyoma, intermediate type

お知らせ

第7回病理夏の学校

期日: 2013年9月7日(土)9月8日(日)

開会: 第1日目 13:00

閉会: 第2日目 12:00

開催場所: 旅館かつらや (宮城県小原温泉)

住所: 宮城県白石市小原温泉字湯本23

電話番号: 0224-29-2121

交通手段:

第1日目 12:00に新幹線白石蔵王駅

または12:10にJR白石駅から無料バス

第2日目 閉会后新幹線白石蔵王駅とJR白石駅から無料バスあり

会費: 学生および研修医: 無料

病理医(病理の大学院生含む)、教員: 10,000円

特別講演1 加藤光保先生(筑波大学医学医療系実験病理解剖学教授)

特別講演2 米澤傑先生(鹿児島大学医学部人体がん病理学教授)

特別講演3 南口早智子先生(京都大学医学部病理診断科准教授)

特別講演4 長沼廣先生(仙台市立病院病理診断科部長)

スペシャルプログラム 歌曲の夕べ 米澤傑先生テノールリサイタル in Zao

各県実行委員

青森県: 諸橋 聡子(弘前大学大学院医学研究科病理生命科学講座)

秋田県: 吉田 誠(秋田大学医学部器官病理学講座)

: 南條 博(秋田大学医学部附属病院病理部)

岩手県: 宇月 美和(岩手医科大学医学部病理学講座先進機能病理学分野)

山形県: 刑部 光正(山形大学医学部病理診断学講座)

福島県: 鈴木 理(福島県立医科大学病理病態診断学講座)

新潟県: 長谷川 剛(新潟大学大学院医学総合研究科分子細胞病理学分野)

宮城県: 渡辺 みか(東北大学病院病理部)

連絡先 東北大学病院病理部

宮城県仙台市青葉区星陵町1-1

TEL: 022-717-7440 FAX: 022-273-5976

小野寺綾佳 (Email: ayaka@patholo2.med.tohoku.ac.jp)

――関東支部――

第59回日本病理学会関東支部学術集会報告

昭和大学病院臨床病理診断科 九島 巳樹

2013年6月29日(土曜日)、昭和大学において第59回日本病理学会関東支部総会・学術集会と第38回日本婦人科病理学会学術集会が共催されました。当日のスタッフを除いて255名の参加があり、熱心な討論をしました。共に長い伝統のある学会の学術集会を同時に開催できたことは日本病理学会関東支部の会員はもちろん、婦人科領域の病理に興味を持つ全国の病理医・産婦人科医の協力によるものと感謝しています。

今回の学術集会のテーマは卵巣腫瘍の病理組織診断(組織型の診断を中心に)で、特別(教育)講演(1)に引き続き、症例提示を含めた特別(各論)講演(2)6題と一般演題の症例検討11題の発表・討論を行いました。多数の症例を1つ1つ丁寧に検討するために症例検討の方法について初めての試みをしました。すなわち、全国から婦人科病理を専門とする6名の病理医を招き、それぞれがテーマに沿った講演と症例検討の座長を分担しました。参加者は明日からの病理診断の実務に役立つ情報を沢山持ち帰りました。

当日のプログラムは以下の通りです。

日時:平成25年6月29日(土曜日)
標本供覧:昭和大学5号館5階実習室
学術講演会:昭和大学上條講堂
(東京都品川区旗の台1-5-8)

【スケジュール】

特別(教育)講演1:

「卵巣腫瘍の病理診断」

九島 巳樹(昭和大学病院 臨床病理診断科)

特別(各論)講演2:(1)-(6) 一般演題の座長を兼務

「卵巣腫瘍の組織型診断(各論)」

(1)「卵巣漿液性腫瘍の見方」

柳井広之(岡山大学病院 病理診断科)

一般演題(症例検討)1:「漿液性卵巣癌と卵管采上皮内病変を認めた1例」

頼田顕辞¹⁾、佐藤勇一郎²⁾(宮崎大学医学部病理学講座腫瘍・再生病態学¹⁾、
宮崎大学医学部病理学講座構造機能病態学²⁾)

一般演題2:「卵管微小病変を伴う卵巣嚢胞性腫瘍の一例」

黒田直人¹⁾、田中梓菜¹⁾、柳井広之²⁾(高知赤十字病院・病理診断科¹⁾、岡山
大学医学部・歯学部附属病院・病理診断科²⁾)

(2)「卵巣粘液性腫瘍」

清川貴子(千葉大学大学院医学研究院 病態病理学)

一般演題3:「卵巣 ovarian mixed-epithelial papillary cystadenoma of borderline malignancy of mullerian type with squamous overgrowth(MEBMMSO)と考えられた2症例」浦野 誠¹⁾、北川 諭²⁾、中川 満¹⁾、櫻井映子¹⁾、岡部麻子¹⁾、熊澤文久¹⁾、桐山諭和¹⁾、塚本徹哉¹⁾、溝口良順¹⁾、黒田 誠¹⁾(藤田保健衛生大学医学部病理診断科¹⁾、トヨタ記念病院臨床検査科病理²⁾)

一般演題4:「Squamous predominance in mixed-epithelial papillary cystadenomas of borderline malignancy of mullerian type の1例」

松本俊治¹⁾、坂口亜寿美、小倉加奈子、萩島大貴²⁾(順天堂大学練馬病院病理診断科¹⁾、順天堂大学練馬病院婦人科²⁾)

(3)「卵巣類内膜性腫瘍」

名方保夫¹⁾、吉安可奈子¹⁾、林 純一¹⁾、村越 誉²⁾(社会医療法人 愛仁会 千船
病院 臨床病理科¹⁾、社会医療法人 愛仁会 千船病院 産科婦人科²⁾)

一般演題5:「子宮内膜症と卵巣癌を認めた1例について」

豊澤秀康¹⁾、青野抄子¹⁾、岡本紘子¹⁾、竹中 真¹⁾、清水華子¹⁾、三村貴志¹⁾、宮本真豪¹⁾、石川哲也¹⁾、関沢明彦¹⁾、九島巳樹²⁾(昭和大学病院産婦人科¹⁾、昭和大学病院臨床病理診断科²⁾)

一般演題6:「大きな充実性内膜組織塊を伴った卵巣子宮内膜症性嚢胞の1例」
渡邊麗子、伊藤以知郎(静岡県立静岡がんセンター病理診断科)

(4)「卵巣明細胞腺癌」

安田政実(埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科)

一般演題7:「多彩な像を呈した卵巣癌肉腫の一例」

永井 毅、吉田真希、松林 純、長尾俊孝(東京医科大学人体病理学講座)

一般演題8:「多彩な組織像を示す転移巣を形成した明細胞腺癌を含む mixed epithelial tumor の一例」

緒方謙太郎¹⁾、野木才美²⁾、玉田 裕²⁾、佐藤博久²⁾(国家公務員共済組合連合会
立川病院病理科¹⁾、産婦人科²⁾)

(5)「卵巣顆粒膜細胞腫の病理診断」

大石善丈(九州大学医学部 形態機能病理)

一般演題9:「セルトリ・ライディッヒ腫瘍の1例」

出張玲子¹⁾、鈴木志帆²⁾、衣川直子³⁾、程島 就⁴⁾、稲葉滋楼⁴⁾、岸本賢二⁴⁾、田中祐吉⁵⁾、井上裕美²⁾(湘南鎌倉総合病院 病理診断部¹⁾、湘南鎌倉総合病院産婦人科²⁾、湘南鎌倉総合病院小児科³⁾、湘南鎌倉総合病院検査科⁴⁾、神奈川県立こども医療センター臨床研究所・医療局病理診断科⁵⁾)

一般演題10:「卵巣ギナンドロプラストーマの1例」

富井翔平¹⁾、大西威一郎¹⁾、根木真理子¹⁾、伊藤 崇¹⁾、倉田盛人¹⁾、小林大輔¹⁾、明石 巧¹⁾、北川昌伸¹⁾、江石義信¹⁾、古田玲子²⁾、本山梯一²⁾(東京医科歯科大学病理部)

(6)「未熟奇形腫に合併した粘液性腫瘍のSTR解析による検討」

長坂徹郎¹⁾、藤井佳穂¹⁾、宮田友子²⁾、山下依子³⁾(名古屋大学医学部 保健学科¹⁾、名古屋大学医学部附属病院病理部²⁾、名古屋市立大学医学部附属病院病理部³⁾)

一般演題11:「甲状腺腫性カルチノイドと診断した右卵巣腫瘍」
渡邊麗子、伊藤以知郎(静岡県立静岡がんセンター病理診断科)

山梨ぶどうの会

第88回

平成24年10月13日 参加者9名

於:山梨大学医学部附属病院2F病理部

症例検討会

番号 部位 年齢・性別 病理診断 出題者

517 腹腔 50歳代男 Urachal carcinoma 望月 邦夫(山梨大学・人体病理)

518 欠番

519 副甲状腺 30歳代男 Parathyroid carcinoma

中澤 匡男(山梨大学・人体病理)

520 軟部組織(外陰部) 40歳代男 Angiomyofibrosarcoma, lipomatous variant

宮田 和幸(市立甲府病院・病理診断科)

521 皮膚(左頬部) 60歳代男 Blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm

大石 直輝(山梨大学・人体病理)

522 鼻腔 40歳代男 Thyroid-like low-grade nasopharyngeal papillary adenocarcinoma 大石 直輝(山梨大学・人体病理)

523 皮膚 50歳代男 Pseudoxanthoma elasticum

井上 朋大(山梨大学・人体病理)

第89回

平成25年1月25日 参加者31名

於: 山梨大学・臨床小講堂

特別講演

「膝腫瘍の病理 ―早期膝癌・前駆病変を中心に―

自治医科大学附属病院病理診断部 福嶋 敬宜 教授

症例検討会

524 膝尾部 70歳代男 Adenosquamous carcinoma

大石 直輝(山梨大学・人体病理)

525 膝頭部 70歳代男 Anaplastic carcinoma

小山 敏雄(山梨県立中央病院・病理科)

526 膝体部 70歳代男 Anaplastic carcinoma

小山 敏雄(山梨県立中央病院・病理科)

527 膝頭部 60歳代女 Invasive ductal carcinoma (micro-invasive)

中澤 匡男(山梨大学・人体病理)

第90回

平成25年3月18日 参加者12名

於: 山梨大学・臨床小講堂

症例検討会

528 子宮 50歳代男 Plexiform tumorlet 井上 朋大(山梨大学・人体病理)

529 皮下組織(左肘) 40歳代女 Kimura disease

大石 直輝(山梨大学・人体病理)

530 右胸壁(腋窩) 50歳代女 Undifferentiated pleomorphic sarcoma, after radioactive therapy 大石 直輝(山梨県立中央病院・病理科)

531 皮膚(外陰) 70歳代男 Porocarcinoma 疑い

中澤 匡男(山梨大学・人体病理)

532 外耳 70歳代男 Cernimous adenocarcinoma

山根 徹(山梨大学・人体病理)

事務局: 中澤 匡男

(山梨大学医学部人体病理学講座 / 附属病院病理部)

e-mail: tadaon@yamanashi.ac.jp

第97回神奈川県病理医会例会

日時 平成25年7月6日(土)

会場 昭和大学藤が丘病院 参加者数 約72名

世話人 光谷俊幸教授(昭和大学藤が丘病院病理診断科)

演題

ミニレクチャー 八尾隆史教授(順天堂大学大学院 人体病態病理学)

「低異型度の胃癌の病理診断」

一般演題

Case 479 小祝千夏、他 (東海大学医学部基盤診療系病理診断学)産後の持続性出血を契機に見えられた絨毛性疾患

Case 480 鈴木エリ奈、他(北里大学医学部病理学) 診断困難であった胸腺腫瘍の一例

Case 481 出張玲子、他(湘南鎌倉総合病院 病理診断部) 原発不明悪性腫瘍の1例

Case 482 眞鍋周太郎、他(聖マリアンナ医科大学 病理学) 異型腺管を伴う回腸神経内分泌腫瘍の1例

Case 483 梅田茂明、他(横浜市立大学医学部 病態病理学) 肺病変の外科的切除生検で診断のついた一例

Case 484 野口咲、他(神奈川県立がんセンター 病理診断科) 鼻腔腫瘍の一例

---中部支部---

中部支部編集委員 森谷 鈴子

次回学術集会予定

第72回中部支部交見会

開催日:平成25年12月21日(土)

世話人:名古屋市立大学病理部 山下依子先生

会場:名古屋市立大学

東海病理医会 検討症例報告

第285回

(平成25年2月16日 参加者17名 於:藤田保健衛生大学)

症例番号 病院名 病理医 年齢(歳代)性 臓器 臨床診断
病理組織学的診断

4506 藤田保健衛生大学 熊澤文久 60 女 乳腺 乳癌再発 Angiosarcoma

4507 藤田保健衛生大学 熊澤文久 60 女 子宮 子宮体癌

Carcinosarcoma, heterologous

4508 藤田保健衛生大学 塚本徹哉 40 男 胃 胃癌

Gastric cancer with chronic anisakiasis

4509 あいち肝胆膵クリニック 黒田 誠 60 男 肝 肝腫瘍 Angiomyolipoma

4510 新城市民病院 黒田 誠 60 女 膝 膝腫瘍 Polyarthrits

4511 新城市民病院 黒田 誠 70 男 十二指腸 ポリープ Typical carcinoid

4512 新城市民病院 黒田 誠 70 男 口腔 乳頭腫 Verruciform xanthoma

4513 トヨタ記念病院 北川 諭 80 男 前立腺 前立腺癌

Adenocarcinoma with paneth cells like neuroendocrine differentiation

4514 名古屋市立大学 山田勢至 2 女 小脳 小脳腫瘍 Medulloblastoma

4515 大同病院 小島伊織 40 女 子宮 子宮筋腫

Low grade endometrial stromal sarcoma

4516 鈴鹿中央総合病院 内山智子 50 男 膀胱 膀胱腫瘍

Inflammatory myofibroblastic tumor

4517 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 60 男 十二指腸 十二指腸隆起

Follicular lymphoma

4518 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 60 男 十二指腸 粘膜下腫瘍

Mantle cell lymphoma

4519 岐阜市民病院 山田鉄也 70 男 肺 肺癌 Basaloid carcinoma

4520 小牧市民病院 栗原恭子 30 女 結腸 結腸癌 Anisakiasis

4521 小牧市民病院 栗原恭子 7 女 軟部 軟部腫瘍 Vascular leiomyoma

第286回

(平成25年3月19日 参加者17名 於:藤田保健衛生大学)

4522 蒲郡市民病院 浦野 誠 60 男 胃 胃ポリープ

Gastric type adenocarcinoma

4523 藤田保健衛生大学 浦野 誠 30 男 耳下腺 耳下腺腫瘍

Follicular lymphoma

4524 藤田保健衛生大学 桐山諭和 80 女 腎 腎癌

Chromophobe renal cell carcinoma

4525 静岡赤十字病院 桐山諭和 60 女 皮膚 皮膚腫瘍

Mixed tumor of the skin

4526 トヨタ記念病院 北川 諭 60 男 皮膚 皮膚癌 Metaplastic carcinoma

4527 岐阜市民病院 山田鉄也 10 女 リンパ節 リンパ節腫大

Castleman's disease

4528 大同病院 小島伊織 70 男 肺 肺癌疑い Spindle cell carcinoma

4529 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 40 女 子宮 内膜異型増殖症

Endometrial carcinoma combined atypical polypoid adenomyoma

4530 小牧市民病院 栗原恭子 60 女 膵 グルカゴノース

Multiple pancreatic NET

4531 小牧市民病院 栗原恭子 40 男 軟部 皮下腫瘍 Nodular fasciitis

4532 名古屋市民病院 山田勢至 30 男 腸腰筋 軟部肉腫

Extraskelatal Ewing's sarcoma

第287回

(平成25年4月20日 参加者20名 於:藤田保健衛生大学)

4533 トヨタ記念病院 北川 諭 60 男 虫垂 急性虫垂炎

Goblet cell carcinoid

4534 トヨタ記念病院 北川 諭 70 女 卵巣 卵巣腫瘍

Carcinosarcoma, heterologous

4535 静岡赤十字病院 桐山諭和 60 男 脾 脾腫瘍

Diffuse large B-cell lymphoma

4536 藤田保健衛生大学 塚本徹哉 0 女 肝 先天性胆道閉塞症

Congenital biliary atresia

4537 藤田保健衛生大学 熊澤文久 60 男 肺 肺癌 Spindle cell carcinoma

4538 藤田保健衛生大学 熊澤文久 70 女 腎 腎腫瘍

Papillary renal cell carcinoma

4539 藤田保健衛生大学 熊澤文久 60 女 卵巣 卵巣腫瘍

Mucinous cystic tumor with stromal carcinoid

4540 藤田保健衛生大学 浦野 誠 60 女 肺 肺内良性腫瘍

Solitary fibrous tumor

4541 藤田保健衛生大学 浦野 誠 80 女 耳下腺 耳下腺腫瘍

Myoepithelioma

4542 名古屋市立大学 山田勢至 6 女 鞍上部 胚細胞腫瘍疑い

Mixed germ cell tumor

4543 大同病院 小島伊織 60 女 肺 肺癌疑い

Organizing granulomatous lesion

4544 大同病院 小島伊織 40 男 肺 過誤腫 Inflammatory pseudotumor

4545 諏訪中央病院 浅野功治 80 女 胆嚢 胆嚢癌 Sarcoma, unclassified

4546 諏訪中央病院 浅野功治 80 女 腸間膜 腸間膜腫瘍

Dedifferentiated liposarcoma

4547 信州大学医学部 上原 剛 80 女 下垂体 下垂体腫瘍

Lymphocytic pituititis

---近畿支部---

近畿支部編集委員 伊東 恭子

近畿支部の最近の活動および今後の活動予定をお知らせいたします。

I-1. 第61回日本病理学会近畿支部学術集会が下記の内容で開催されました。

平成25年5月18日(土)

場所:大阪市立大学

世話人: 上田真喜子先生(大阪市立大学)

テーマ: 非腫瘍性肺疾患・胸膜病変

モデレーター: 大林千穂 先生(奈良県立医科大学)

以下にプログラムを掲載いたします。(なお、検討症例、画像等につきましては(<http://jspk.umin.jp/H24-/gakujuutushu-kai/57th/program%2057th.html>) で閲覧可能です。) なお、今回も託児所を開設いたしました(sakaida@hirakata.kmu.ac.jp)。

症例検討

座長: 三上芳喜 先生(京都大学)

822 卵巣腫瘍の一例

石井真美 先生, 他(大阪市立総合医療センター 病理部)

823 腎腫瘍の1例

割栢健史 先生, 他(和歌山県立医科大学人体病理学教室, 他)

座長: 中塚伸一 先生(関西労災病院)

824 小腸腸間膜腫瘍の1例

奥野高裕 先生, 他(大阪市立総合医療センター病理部)

825 小腸間膜腫瘍の一例

石垣宏仁 先生, 他(滋賀医科大学 病理学講座, 他)

826 縦隔腫瘍の1例

原田博史 先生(生長会 病理センター 府中病院 病理診断科)

座長: 三輪秀明 先生(大阪労災病院)

827 乳児心筋症の1剖検例

筑後孝章 先生, 他(近畿大学医学部病理学教室, 他)

828 肺内に骨・類骨組織を認めた器質化肺炎の1剖検例

市川千宙 先生, 他(神戸市立医療センター中央市民病院 臨床病理科, 他)

座長: 伏木信次 先生(京都府立医科大学)

平成24年度公募部門学術奨励賞受賞講演

「腎腫瘍の多彩性, 奥深さに魅せられて」

大江知里 先生(関西医科大学附属枚方病院 病理科)

「Semaphorin4Aにおける点突然変異が網膜色素変性症を引き起こす分子病理学的機序」

野島 聡 先生(大阪大学 大学院医学系研究科 病態病理学講座)

座長: 上田真喜子 先生(大阪市立大学)

特別講演: 『間質性肺炎の病理診断』

福岡 順也 先生(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 病態病理学)

座長: 大林千穂 先生(奈良県立医科大学)、辻村 亨 先生(兵庫医科大学)

<診断講習会>

1. 肺感染症病理(肺結核を中心に)

清水重喜 先生(NHO 近畿中央胸部疾患センター 臨床検査科)

2. 非感染性肉芽腫性疾患(サルコイドーシス、過敏性肺炎を中心に)

安原裕美子 先生(京都桂病院 病理診断科)

3. 肺血管病変(肺高血圧症の病理を中心に)

大郷恵子 先生(国立循環器病研究センター 臨床検査部臨床病理科)

4. 膠原病関連の間質性肺炎

本庄 原 先生(天理よろづ相談所病院 医学研究所・病理診断部)

5. 非腫瘍性胸膜疾患-中皮腫の鑑別を中心に-

笠井孝彦 先生(産業医科大学第1病理学教室)

II. 今後の学術集会の予定です。

II-1 第62回日本病理学会近畿支部学術集会

日時: 平成25年9月28日(土)

場所: 関西医科大学(枚方)

世話人: 螺良愛郎 先生(関西医科大学)

テーマ: 骨・軟部腫瘍

モデレーター: 小西英一 先生(京都府立医科大学)

II-2 第63回日本病理学会近畿支部学術集会

日時: 平成25年12月7日(土)

場所: 京都府立医科大学

世話人: 伊藤彰彦 先生(近畿大学)

テーマ: 胆道・膵臓

モデレーター: 柳澤昭夫 先生(京都府立医科大学)

II-3 第64回日本病理学会近畿支部学術集会

日時: 平成26年2月8日(土)

場所: 大阪大学

世話人: 森井英一 先生(大阪大学)

テーマ: 顎・口腔疾患(唾液腺を除く)

モデレーター: 豊澤 悟 先生(大阪大学)

III. 平成25年度 夏期病理診断セミナー(愛称:夏の学校)の予定です。

日時: 2013年8月10日(土)・11日(日)

場所: 神戸大学医学部

第2実習室(研究棟C地下1階第2実習室)

テーマ: Her2病理診断のすべて

8月10日(土) 13時～18時30分

1. 「基礎と臨床」

三好 康雄 先生(兵庫医科大学 乳腺内分泌外科)

2. 「免疫染色 基礎から実践まで」

澁木 康雄 先生(国立がん研究センター中央病院 病理・臨床検査科)

3. 「FISHとDISH 基礎から実践まで」

津田 均 先生(防衛医科大学校 病理病態学)

4. 「乳腺」

津田 均 先生(防衛医科大学校 病理病態学)

5. 「胃」

九嶋 亮治 先生(国立がん研究センター中央病院 病理・臨床検査科)

8月11日(日) 9時～12時

1. 「Her2 病理診断実習(1)乳腺」

津田 均 先生(防衛医科大学校 病理病態学)

2. 「Her2 病理診断実習(2)胃」

九嶋 亮治 先生(国立がん研究センター中央病院 病理科)

日本病理学会近畿支部 平成25年度 夏期病理診断セミナーホームページをご覧ください。

<http://jspk.umin.jp/H24-/summer-seminar/summer-seminar2013.html>

---中国四国支部-----

中国・四国支部編集委員 串田 吉生

A. 開催報告

1. 第111回学術集会

開催日: 平成25年6月22日(土)

場所: 松江テルサ大会議室

世話人: 島根大学医学部器官病理学 丸山理留敬教授

恒例のライドカンファレンスでは21演題が集まり、活発な討議が行われました。発表スライドや投票結果は<<http://csp.umin.ne.jp/pctindex.htm>>から見る事が出来ます。

一般演題

- 演題番号/タイトル/出題者(所属)/出題者診断/最多投票診断
S2455/左頬粘膜下腫瘍/黒田直人(高知赤十字病院病理診断科部)/
Mammary analogue secretory carcinoma/Acinar cell carcinoma
S2456/耳下腺腫瘍/安藤俊範(広島大学医歯薬学総合研究科口腔顎顔面病理
病態学)/Low grade cribriform cystadenocarcinoma/Salivary duct carcinoma
S2457/前縦隔腫瘍/石川亮(香川大学医学部附属病院病理診断科)/
Micronodular thymoma with lymphoid stroma/concord
S2458/胸腔内腫瘍/石井文彩(山口大学大学院医学系研究科病理形態
学)/Malignant mixed tumor (myoepithelial carcinoma)/Chondrosarcoma
S2459/甲状腺腫瘍/中山宏文(広島鉄道病院臨床検査室)/
Follicular adenoma, lipoadenoma/concord
S2460/小腸腫瘍/前田智治(愛媛県立中央病院病理診断部)/
Calcifying fibrous tumor/concord
S2461/肝腫瘍/竹治みゆき(愛媛県立中央病院病理診断部)/
Solitary necrotic nodule/ Parasite infection
S2462/脾頭部腫瘍/田中梓菜(高知赤十字病院病理診断科部)/
Hepatoid carcinoma/concord
S2463/皮膚腫瘍/大本卓司(徳島大学医学部人体病理)/
Superficial leiomyosarcoma/Dermatofibroma
S2464/皮膚病変/都地友紘(岡山大学医歯薬総合研究科腫瘍病理
学)/Sebaceous carcinoma/concord
S2465/皮膚腫瘍/深田真由(鳥取大学医学部附属病院病理部)/
Nerve sheath myxoma, cellular type/Spitz nevus
S2466/全身皮膚病変/板倉淳哉(岡山大学医歯薬学総合研究科免疫病理
学)/Langerhans cell histiocytosis/concord
S2467/左大腿軟部腫瘍/齋藤彰久(呉医療センター・中国がんセンター病理診断
科)/Pleomorphic liposarcoma/concord
S2468/骨盤内腫瘍/天野知香(島根大学医学部病態病理学)/
Extraskletal mesenchymal chondrosarcoma/concord
S2469/外陰部皮下腫瘍/長崎真琴(浜田医療センター臨床検査科)/
Synovial sarcoma/concord
S2470/後腹膜腫瘍/大沼秀行(島根県立中央病院病理組織診断
科)/Intraabdominal desmoid/concord
S2471/卵巣腫瘍/浦岡直礼(広島大学大学院医歯薬保健学研究院分子病理
学)/
Transitional cell carcinoma/concord
S2472/骨盤内腫瘍/吉田学(松江市立病院臨床検査科)/AFP-producing
adenocarcinoma + neuroendocrine carcinoma/Mixed epithelial tumor
S2473/静脈病変/能登原憲司(倉敷中央病院病理検査科)/
Cryoglobulinemic vasculitis/Phlebitis
S2474/子宮腫瘍/小林計太(鳥取市立病院病理診断科)/Undifferentiated
endometrial sarcoma with osteoclast-like giant cell/Leiomyosarcoma
S2475/脾臓腫瘍/藤原英世(川崎医科大学病理学1)/
Splenic diffuse red pulp small B-cell lymphoma/Hairy cell leukemia

B. 開催予定

1. 第112回学術集会

開催日:平成25年12月7日(土)

世話人:岡山赤十字病院 大原信哉先生

2. 第14回病理夏の学校

開催日:平成26年8月18日(日)~19日(月)

世話人:鳥取大学医学部分子病理学 林一彦教授

会場:皆生グラントホテル 天水

C. 県単位の研究会などの開催報告

1. 第101回愛媛県病理研究会

開催日:平成25年4月13日(土)

当番幹事:四国がんセンター

演題数:8 参加人数:約20名

2. 第52回山陰病理集談会

開催日:平成25年4月13日(土)

世話人:鳥取大学医学部器官病理学 梅北喜久教授

演題数:11 参加人数:31名

---九州・沖縄支部-----

九州・沖縄支部編集委員 相島 慎一

第333回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日時:平成25年5月11日

場所:九州大学病院地区 九州大学百年講堂中ホール

世話人:九州大学大学院 形態機能病理 小田義直

参加人数:218名

症例番号/出題者/所属/患者年齢/患者性別/部位/

出題者診断/投票最多診断(投票数 30)

- 1/ 田中弘之/宮崎大学腫瘍・再生病態学/ 64代/ 男/甲状腺/
Poorly differentiated carcinoma/ Papillary carcinoma
- 2/ 澁谷亮/産業医科大第一病理/ 30代/ 男/顎下腺/
Myoepithelioma with gene translocation / Myoepithelioma
- 3/ 西嶋利光/九州大学形態機能病理/ 70代/ 女/ 耳下腺/ Intraductal
carcinoma with tumor-associated lymphoid proliferation/ Warthin tumor
- 4/ 田崎貴嗣/産業医科大第二病理/ 70代/ 女/ 胃/ Adenocarcinoma with
inflammatory fibroid polyp / Adenocarcinoma with inflammatory fibroid polyp
- 5/ 成毛有紀/熊本医療センター/ 60代/ 男/腎/
Chromophobe RCC / Chromophobe RCC
- 6/ 林徳真吉/長崎大学病理部/ 10代/ 女/ 腎臓/
Renal dysplasia / Renal dysplasia
- 7/ 伊東智宏/福岡大学病理学講座/ 40代/ 女/子宮頸部/
Cervical endometriosis/ Endometriosis
- 8/ 荒金茂樹/大分大学診断病理/ 50代/ 男/ 子宮/
Intravenous leiomyomatosis / Intravenous leiomyomatosis
- 9/ 和田純平/大分県立病院病理/ 40代/ 男/ 脾臓/
Splenic hamartoma, myoid angioendothelioma subtype / Littoral cell angioma
- 10/ 中村恵理子-佐藤勇一郎/宮崎大学構造機能病態/ 60代/ 女/ 脛骨/
Adamantinoma of long bone / Osteosarcoma
- 11/ 鍋島篤典/産業医科大第二病理/ 70代/ 男/ 頸部/
Chondrosarcoma, grade 2/ Chondrosarcoma
- 12/ 北田昇平/産業医科大第二病理/ 30代/ 女/ 皮下/
Cellular neurothekeoma/ Nerve sheath myxoma

また同日に九州沖縄スライドコンファレンス世話人会と日本病理学会九州・沖縄支部総会が開催され、以下の報告と議題の承認がなされました。

九州沖縄スライドコンファレンス 世話人会

日時:平成25年5月11日(土) 11:00-11:30

出席者:世話人および会員84名

1) 役員改選 なし

2) 平成25年度の開催予定

7月 久留米大学

9月 九州大学(合同カンファレンス脳腫瘍)

11月 熊本大学

1月 鹿児島大学

3月 長崎大学

5月 九州大学(世話人会、九州沖縄支部総会)

3) 標本配布先変更・新規加盟機関、世話人
大分厚生連鶴見病院 世話人 近藤 能行
健和会大手町病院 世話人 松木 康真
日本病理学会九州・沖縄支部総会

日時:平成25年5月11日(土)14:00-15:00

報告1) 第7回九州ブロック初期・後期臨床研修進路説明会

報告2) 第2回九州沖縄支部病理学校

報告3) 各種委員会活動報告

業務委員会、学術委員会、広報委員会、
ホームページ委員会、男女共同参画委員会、
九州沖縄支部スライドコンファレンス

報告4) 九州・沖縄コンサルテーションシステム

報告5) ティーチングファイルの運用について

議題1) 役員交代

議題2) 平成24年度決算報告

議題3) 平成25年度予算報告

議題4) 第3回九州沖縄支部病理学校

議題5) 九州沖縄支部スライドコンファレンス規約(案)

議題6) その他 TF委員会の設置

支部ホームページの求人広告掲載に関して

森谷鈴子 森永正二郎 森谷卓也 八尾隆史 安田政実
谷田部恭 柳井広之 柳澤昭夫 山口岳彦 山鳥一郎
横尾英明 横山繁生 吉川洋 吉田朗彦 吉野正 若狭研一

日本病理学会コンサルテーションシステム 謝辞

平成24年度日本病理学会コンサルテーションシステムにおきまして、ご尽力を賜りましたコンサルタントの先生方に心より感謝申し上げます。コンサルタントをお引き受けくださった先生方を以下に記載させていただきます。

相島慎一 秋山太 味岡洋一 新井栄一 新井富生
石川雄一 石田剛 泉美貴 伊藤雅文 今村好章 入江準二
岩田純 岩渕三哉 植田初江 大内知之 大倉康男
大島孝一 岡輝明 小川郁子 小田義直 小幡博人
覚道健一 鹿毛政義 加藤良平 亀田典章 亀山香織
清川貴子 孝橋賢一* 九嶋亮治 黒住昌史 黒田直人
小島勝 小西英一 小森隆司 桜井孝規 佐々木惇
佐々木恵子 笹島ゆう子 定平吉都 塩見達志 澁谷誠
清水道生 白石泰三 新宅雅幸 菅井有 鈴木正章
砂川恵伸 関邦彦 仙波伊知郎 園部宏 高田隆 竹内真
竹下盛重 立山尚 田中祐吉 田丸淳一 蔦幸治 津田均
土屋眞一 都築豊徳 堤寛 手島伸一 長尾俊孝 長坂徹郎
中里洋一 中嶋安彬 中島孝 長嶋洋治 名方保夫
中谷行雄 中沼安二 中峯寛和 中村栄男 中村眞一
中村直哉 二階堂孝 仁木利郎 西川俊郎 野口雅之
野島孝之 長谷川匡 久岡正典 比島恒和 平戸純子
蛭田啓之 廣川満良 廣島健三 廣瀬隆則 福岡順也
福永真治 福本隆也 藤林真理子 本間慶一 増田しのぶ
松野吉宏 松本俊治 三上芳喜 三上修治 湊宏 元井亨

=====

病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mailなどで御投稿下さい。

病理専門医部会会報編集委員会: 村田哲也(委員長)、望月 眞(副委員長)、深澤雄一郎(北海道支部)、増田友之(東北支部)、中村直哉(関東支部)、森谷鈴子(中部支部)、伊東恭子(近畿支部)、串田吉生(中国・四国支部)、相島慎一(九州・沖縄支部)

=====